

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 7月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700293		
法人名	日本システムサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム いきいき岩見沢		
所在地	岩見沢市志文町1180-47 (電話) 0126-25-7615		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年7月15日	評価確定日	平成21年7月27日

【情報提供票より】 (平成21年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 4月 2日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	3 階建ての 2・3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000~32,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 22,000円 暖房代: 10,000円 (10月-4月)	
敷 金	有 (円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (20,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		700 円	

(4) 利用者の概要 (6月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 健伸会 東町ファミリークリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームいきいき岩見沢は、郊外の自然環境に恵まれた位置にあり、建物は共同住宅を改装したものであるが、スプリンクラーが設置されているなど設備の安全性が高い。ホーム内は職員と利用者が協力して作った作品が飾られ、共用空間は明るく開放的で窓からは森林を見渡することができるなど、ゆったりと温かく家庭的な雰囲気である。管理者は利用者の視点からのケアを心がけ、定期的にアンケート用紙を家族宛に送るなど常に利用者や家族等の意見を重視している。管理者の指導のもとに職員は全員がケアの向上に熱心である。利用者は全員がなんらかの役割を受け持っていて、毎月の行事や毎週のカラオケ参加など楽しみごとも多い。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) ホーム独自の分かりやすく現状にあったケア理念を作り上げ、プライバシーの確保を徹底するために面会簿をノート形式から単票にするなど、前回の外部評価での改善課題はほぼ改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 今回の自己評価は、新人職員が多かったことから職員全員の意見を参考に管理者とベテラン職員が協力して内容をまとめあげたが、次回からは全職員が項目ごとに作業を分担し、全員で自己評価を作り上げるようステップアップしていくつもりである。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議では、自己評価・外部評価の内容も議題として話し合いサービス向上に生かしている。参加者からの意見も活発であり会議での提案を受け、利用者がパークゴルフに挑戦するなどケアの実践にも生かされている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めており、意見があった場合は個別に対応している。アンケート箱を玄関に設けているがなかなか利用されないため、2ヶ月に1回、無記名で簡単に投函できるアンケートを家族等宛に送るなどの工夫を行っている。
	④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 町内会・老人クラブに入会しており、町内会連合会の祭りや毎週の町内会カラオケなど、地域の行事には町内会の方が必ず声をかけてくれたり誘いにきてくれたりする。日常的に近隣の方が魚や野菜、キノコのような新鮮な食材を届けてくれるなど地域との交流は盛んである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、法人の理念とは別にグループホーム独自のケア理念「地域の一人として心穏やかな生活をいきいきと自分らしく送られる様支援します」を、管理者と職員とで話し合いつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア理念をホーム内に掲載している。管理者と職員全員が名札の裏にケア理念を印刷したものを携帯し、日々確認して理念の実践に生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・老人クラブに入会しており、町内会連合会の祭りや毎週の町内会カラオケなど、地域の行事には町内会の方が必ず声をかけてくれたり誘いにきてくれたりする。日常的に近隣の方が魚や野菜、キノコのような新鮮な食材を届けてくれるなど地域との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価及び外部評価を実施する意義について全員に話し、前年度の外部評価については積極的に改善に取り組んだ。今年度の自己評価については、新人職員が多かったことから職員全員の意見を参考に管理者とベテラン職員が協力して内容をまとめた。	○	次年度は、全職員が項目ごとに作業を分担し、全員で自己評価を作り上げていくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、自己評価・外部評価の内容も運営推進会議の議題として話し合いサービス向上に生かしている。参加者からの意見も活発で、昨年度は会議での提案を受け、利用者がパークゴルフに挑戦するなどケアの実践にも生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、月1回は市の担当者を訪問しホームの情報を提供している。また、市の主催する研修の情報を教えてもらうなど情報交換に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の折には、利用者の日々の状況を報告している。ホーム便りを月1度発行するほか、2ヶ月に1回は各家族等宛に個別に担当者が近況報告の手紙を書いている。金銭出納報告と領収書は毎月家族等の訪問時に手渡すか郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めており、意見があった場合は個別に対応している。アンケート箱を玄関に設けているがなかなか利用されないため、2ヶ月に1回、無記名で簡単に投函できるアンケートを家族等宛に渡すなど工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのホームなので職員の異動はない。職員が退職した場合は、利用者の性格や状態を配慮して事実を伝えたり表現方法を変えるなどダメージを最小限度にするよう工夫している。職員を新規採用する際は、入社前に利用者と一緒に食事をとるなどホームでの生活を体験してもらい、利用者との相性やホームと馴染めるかどうかを採用条件としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外部研修の情報を提供し希望する研修を受講できるようにしている。全職員が年間を通じて2回以上研修を受講している。受講者は研修後に報告書を作成しミーティングの場で発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のグループホームと話し合い互いのホームを見学している。昨年度は、職員1名が他のホームを2日間にわたり見学・実習し、先方の管理者も当ホームを見学に来た。	○	今年度も管理者研修での企画で、お互いのグループホームを職員が見学・実習する予定があるとのことであり、その取り組みに期待したい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には本人と家族等に必ずホームを見学してもらっている。体験入居も実施している。利用開始直後は、利用者が不安を感じるようであればホームに馴染めるまで家族と一緒に泊まれるよう寝具や食事の提供もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と同じ目線での会話を心がけており、カラオケや体操など一緒に楽しんでいる。また、利用者の得意なことを教えてもらっている。料理の得意な利用者には漬物のつけ方を、包丁研ぎの得意な利用者にはホームの包丁だけではなく町内会の方が持ち込んだ包丁を研いでもらうこともある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの日常パターンや状況を把握しており、表情やしぐさから、体調の良し悪しや散歩やトイレにいきたい気持ちを汲み取れるよう職員同士で確かめ合いながらケアを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、利用者が自分らしく暮らせるように利用者や家族等、時には近所の方からの気づきや意見も反映させながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に3ヶ月ごとに見直しをしている。状況に応じて随時見直しを行ない、1ヶ月ごとに新鮮な目でモニタリングをして現状に即した支援を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法事やお彼岸などの行事での送り迎え、かかりつけ医への通院、買物、喫茶店などに職員が同行している。家族等の突発的な宿泊等に対しても寝具や食事を用意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は希望するかかりつけ医で受診することができる。ホームでは4週に1度協力医療機関で外科と内科の往診があるほか、協力歯科医院も毎週往診してくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応、終末期ケア対応指針」「医療連携体制サービス契約書」が用意されており、重度化した場合や終末期のあり方については、入居時から本人や家族等と話し合い、職員も含めて方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけないよう言葉かけには注意している。記録物は外部持ち出し禁止を徹底している。昨年度まで面会簿にノートを使用していたが外部評価時にアドバイスを受け、その後は面会者ごとに1枚の紙に記入してもらい別保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は待つ介護を合言葉として、利用者一人ひとりのペースを尊重したケアを日々実践している。起床時間・おやつ時間など一応ルールはあるが、声かけのみで強制はしていない。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に調理、配膳、盛り付けや後片付けなどを行なっている。職員は利用者と同じ料理を会話を楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	土・日以外の午後は希望すればいつでも入浴できる。ほぼ全員が週2回入浴しており、入浴を拒否する利用者には最低でも週1回は入浴してもらうようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、草取り、新聞の整理など利用者は全員がなんらかの役割を受け持っている。毎週月曜日の町内会主催のカラオケや毎月の行事も楽しみにしており、希望者で喫茶店に行くこともある。昨年度は牛乳パックの椅子づくりをボランティアの方が教えにきてくれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬場以外の天候の良い日は毎日散歩に行っている。毎月の行事のほか月1回の外食や週1回のカラオケなど外出の機会が多い。冬季は車で大型店に買い物に行くなど外出の機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠していない。玄関にはセンサーを取り付けて利用者の外出が分かるようにし、安全を確保している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施し、救急救命講習は全職員が受講している。スプリンクラーを今年7月に設置した。また、地域の方々に協力を得られるように日常的に働きかけている。昨年度から災害時の連絡網を整備できるよう自治会に協力をお願いしている。	○	引き続き自治会に協力をお願いし、早急に災害時の連絡網を整備することを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態を把握し食事のバランスや水分摂取量を確保している。体調に合わせてお粥、麺類、ジュースなど内容の工夫をしている。日々の献立は本部の管理栄養士が立てた献立表を参考に作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には写真や季節の植物、職員と利用者が共同で作った作品などが飾られている。廊下の要所にはソファが用意され居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具や馴染みの物が用意され、安全で安心な生活の場となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。